



左：工場全景。日本向け墓石製品をメインに生産し、成長が見込まれるベトナム国内市場にも日本品質（高品質）の墓石を出荷していく。敷地面積は1ヘクタールを誇る大規模工場である



ベトナムの墓石専門工場〈TAKUMINO〉に出資した(株)オクノ・奥野慶大社長（右）と、パートナーで〈TAKUMINO〉ゼネラルマネージャーのヴ・ホン・クアン氏

takumino
VIETNAM | JAPAN

石材商社・(株)オクノ（本社：岡山県笠岡市）の共同出資による墓石専門工場〈TAKUMINO〉が今年2月、ベトナム・ビンティン省のニョンホア工業団地に完成し、6月に完成セレモニーが盛大に開催されました。目指すのは「ジャパン・クオリティ」を満たすお墓づくり。そのために〈TAKUMINO〉では(株)オクノの指導のもと工員、スタッフの技術面・サービス面のトレーニングが進められ、着々と製品出荷体制を整えています。かねてより、中国の一極集中によるリスク回避のため「チャイナ・プラスワン」を模索してきた(株)オクノ。奥野慶大社長に話を聞きました。

インタビュー

ベトナムで墓石専門工場 〈TAKUMINO〉誕生！

共同出資 (株)オクノ・奥野慶大社長

「チャイナ・プラスワンでリスクを回避し、
ジャパン・クオリティのブランド確立へ！」

奥野社長 ベトナムに、当社共同出資による墓石専門工場〈TAKUMINO〉が誕生しました。完成セレモニーには日本からも取引先の皆様にご出席いただき、誠にありがとうございました。誌面を

お借りして、改めて御礼を申し上げます。

〈TAKUMINO〉は、

- ①チャイナ・プラスワンによる安心の創出
- ②ジャパン・クオリティによるブランドの確立

を標榜して立ち上げた墓石専門工場で、日本市場に向けた高品質墓石製品の生産・出荷をメインにしています。また現在成長著しいベトナム国内の霊園・墓石市場にも、同様に日本の品質基準を満たすハイクオリティの墓石製品を提供し、国内外に向けて〈TAKUMINO〉ブランドの確立・発信を強力に推進していきます。

生産地の分散化でリスク回避

当社では二〇一一年から、チャイナ・プラスワンへの視点で、中国と並行して日本向け墓石製品の



〈TAKUMINO〉で加工した日本向け墓石製品



こちらはベトナム国内向けの墓石製品。〈TAKUMINO〉ブランドで国内市場の開拓も図る

〈TAKUMINO〉の主な機械設備

20t門型クレーン1台(屋外)/10tホイストクレーン1台/3tホイストクレーン5台/0.5tジブクレーン17台/鉱山用ワイヤーソー1台/大口径切削機2500mm2台、2200mm2台/小口径切削機1600mm1台、1200mm4台、900mm3台/自動オフカット1台/角度可変オフカット1台/オフカット2台/穴あけ機2台/自動旋盤機1台/旋盤機1台/手加工用集塵機10台/自動研磨機2台/研磨機12台/サンドブラスト機1台/ブレードチップ溶接機2台
(工場面積:2,720㎡)

ジャパン・クオリティーの実現へ

〈TAKUMINO〉の建設は昨年四月に始まり、十一月に仮完成し、今年二月に竣工しました。工場が稼働できる状態の仮完成のタミングで、当社は本社工場(岡山県笠岡市)から工員(技術スタッフ)を常時二名ずつ派遣し、日本市場での厳しい品質基準をクリアする生産体制の構築のため、継続して指導・教育を進めています。

また、〈TAKUMINO〉の現地工員(現在、約四十名雇用)は、あえて未経験者を採用しています。前述のように、生半可な知識・経験を有していると、日本の高度な要求には応えきれないのを、これまでのタイアップの経験から把握しているからです。〇から1へ(ゼロからイチ)にしていくわけで相応の努力を要しますが、OJT(実務指導)によ



〈TAKUMINO〉の工員・スタッフとともに。工場の清潔さ、機械設備の充実ぶりもうかがえる

生産拠点の開拓を進めてきました。そのなかでの最有力候補はベトナムであり、すでにこれまで複数社とタイアップして当社の本社工場より技術スタッフを派遣するなど、高品質製品の生産体制確立を試みてきましたが、正直、トライアンドエラーの繰り返しでした。特に多くのベトナム工場(主に建築石材)では欧米向け墓石を生産していかえってその経験が日本の高度な品質基準を満たすための指導・教育の支障にもなり得ました。

その過程で、ベトナム・ビンディン省で霊園を経営し、「(付加価値向上のため)高品質の墓石製品を生産する工場が必要」と考えるザ・ホン・クアン氏と出会い、目標やビジョンが一致し、「TAKUMINO」が誕生しました。

なぜ、当社が、チャイナ・プラawangの必要性を訴えるのか。

ご存じのとおり、中国では現在、工員の賃金アップ、丁場の閉鎖(石種の減少)、製品価格の高騰、工員の高齢化と今後の人手不足への懸念、並行して技術・品質の低下も懸念されています。また今後の台湾有事が危惧されるように、中国と台湾との緊張状態がさらに高まれば、隣接する福建省の石材産業、特に厦門港からの船便等にも何らかの影響や支障が現れると予測されます。

中国は長らく、各国の石材産業の生産拠点として一極集中的に機能しています。日本にとっても例外ではありません。その生産拠点を分散させる、つまり、プラスwangを設けることで、今後想定されるさまざまなリスクを回避できると、当社は考えています。

そこに〈TAKUMINO〉の真価があるといえます。



セレモニーにあわせてクアン氏が経営する霊園を視察。今後拡大が予測されるベトナム国内の墓石市場にも高品質の製品を出荷していく

当然、価格面のメリットも大きく、石種にもありますが、中国製品より安価で提供できるよう努めていきます。また納期は流動的ですが、受注から納品までを一ヵ月強見込んでいます。

地域社会への貢献も目指す

〈TAKUMINO〉は単なる石材メーカーではなく、地域社会

への貢献も視野に入れて事業を展開していきます。すでにKPI(重要業績評価指標)を導入し、工員・スタッフの働きがいの創出とサービス向上を図り、雇用の促進に努め、またSDGs(持続可能な開発目標)の視点も取り入れて、女性の活躍や環境・衛生面への配慮等、先進的な経営システムの構築にも努めていきます。

さらにベトナム政府は現在、火葬を推進していますが、その普及とともに今後はお墓や供養に関するニーズの多様化も予測されます。その際に、一歩先を行く日本のお墓や供養の文化・サービスを紹介・提案し、供養の側面でも貢献したいと考えています。

〈TAKUMINO〉の展開に

ぜひご期待ください。

※詳しい情報、発注等のお問い合わせは下記広告まで



去る6月7日に開催された〈TAKUMINO〉完成セレモニー。地元での注目度も高く、セレモニーには政府関係者等も多数出席。日本からは(株)オクノの取引先も出席した。左の写真で、手前から二人目は(株)オクノの奥野千秋会長。その右隣がクアン氏、さらに右隣には奥野社長の姿が見える

り、また内容がぶれないよう通訳者とは長期契約を交わして、緊張感を持ちながら、地道に丁寧に指導しています。

工場の生産能力(主な機械設備は前頁に記載)はマックスで月産四千五百切程度を見込んでいます。現状は品質確保を最優先で考えているため、まだ生産性が上がらずに月産五百切程度ですが、年内には一千切に引き上げ、来年以降は順次引き上げていく予定です。

取り扱い石種は、現状でベトナム産のグレー系・白系・ピンク系・赤系・青系の六種類を取り揃えています。もちろん、近い将来にはベトナム材以外の石種も各種拡充し、最終的には日本材の取り扱いも視野に入れています。日本材は、今後さらに需要増が見込める、ベトナム国内の富裕層向けに展開していきたいと考えています。

ジャパン・クオリティーを実現する



takumino

VIETNAM | JAPAN

ベトナム工場、誕生

お問い合わせは
こちらから!



株式会社オクノ
本社:岡山県笠岡市港町1-6
<http://www.okuno-s.jp/>